

科目責任者 三田 充男 (薬効学教室)

## ■ 教育目的

薬理学Ⅰと同様の目的をもって講義をする。薬理学Ⅰにおける中枢神経系に引き続き、自律神経系の伝達物質並びに自律神経系に作用する薬物について、受容体、作用機序、臨床応用、副作用などを理解することを目的とする。さらに、生体の防御機構に関与する内因性物質である オータコイド関連について理解し、いくつかの重要な疾病の治療に直結した治療薬に関し、受容体、作用機序、臨床応用、副作用などを理解することを目的とする。

## ■ 学習到達目標

1. 末梢神経系の自律神経系と体性神経系の形態・機能を列挙し、代表的な作用薬の薬理作用、作用機序及び主な副作用について説明できる。
2. アレルギー、炎症及び免疫に関連した生理活性物質を列挙し、その薬理作用及び病態における役割を説明できる。
3. 各種疾患、病態に用いられる代表的な治療薬を挙げ、その薬理作用、作用機序、臨床応用及び主な副作用を列挙し、薬物の基礎理論と臨床応用との関連を説明できる。

## ■ 準備学習（予習・復習）

予習：講義内容に関連した生理学の部分を復習しておくこと。

復習：講義プリント読み返して、理解できなかった部分に関しては参考書等で調べること。それでも理解できない時はメール等で質問して、内容をしっかり理解するようにすること。

## ■ 授業内容

交感神経系と副交感神経系の概説、末梢神経系の薬理（ノルアドレナリン、アドレナリン、アセチルコリン関連薬物、神経節作用薬、神経筋接合部作用薬、局所麻酔薬など）、アレルギー・免疫炎症系の薬理などに関して講義する。

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	自律神経系に作用する薬	自律神経総論 (必要に応じて、マルチメディア学習やインターネットによる解答を取り入れる。以下同様)	C9 (5) -3-1 C13 (2) -2-1、2、3 C13 (2) -6-1
2~3	//	交感神経興奮様薬及び遮断薬	C9 (5) -3-1 C13 (2) -2-1 C13 (2) -6-1
4	//	副交感神経興奮様薬及び遮断薬	C9 (5) -3-4 C13 (2) -2-2 C13 (2) -6-1
5	//	自律神経節刺激薬及び遮断薬	C13 (2) -2-3 C13 (2) -6-1
6	//	眼に作用する薬物	C13 (2) -2-1、2、3、 C13 (2) -6-1
7	知覚神経系・運動神経系に作用する薬	局所麻酔薬	C13(2)-3-1、C13(2)-6-1
8	//	神経筋接合部刺激薬及び遮断薬	C13 (2) 3-2 C13 (2) -6-1
9	炎症・アレルギーと薬	ヒスタミンとセロトニン及びその関連薬	C9 (5) -2-4
10	//	ポリペプチド類、一酸化窒素、アラキドン酸代謝物及びその関連薬	C9 (5) -2-1、2、3、5、6 C9 (5) -3-3
11	//	サイトカイン類及びその関連薬	C9 (5) -4-1、2、3
12	//	免疫抑制薬・増強薬、免疫調整薬、関節リウマチ治療薬	C13 (3) -6-2 C13 (3) -7-1
13	//	抗ヒスタミン薬、ケミカルメディエーター 遊離阻害薬、合成阻害薬及び遮断薬	C13 (3) -6-3 C13 (3) -7-1
14	//	非ステロイド性抗炎症薬、ステロイド性抗炎症薬	C13 (3) -1-2 C13 (3) -6-1 C13 (3) -7-1
15	代謝系に作用する薬	高尿酸血症・痛風治療薬	C13 (3) -5-3

## ■ 授業分担者

No. 1 ～ 15：三田 充男

## ■ 成績評価方法

学期末試験の成績（100 %）で評価する。

## ■ 教科書

講義プリント

## ■ 参考書

『NEW 薬理学』 田中 千賀子 他 著（南江堂）

『薬理学—医薬品の作用』 竹内 幸一 他 著（廣川書店）

『グッドマン・ギルマン薬理書（上・下）』 高折 修二 他 監訳（廣川書店）